2.小学校体育の現状と「小学校体育活動コーディネーター」の学校配置

①小学校教員の実態

学校現場

準教科書はあっても教科書も指導書もない。⇒学習指導要領を参考

教員の養成課程における課題
⇒大学での単位数が少ない。
（履修時間不足）
⇒専門性が低くても指導。
（学級担任制）
↓
○どこまで教えるのか明確な基準がない
○「教えなければならない」という意識が薄い

島根県の場合
小学校教員を対象とした体育の必須研修
初任者研修時（実技3時間）
３年目、６年目、１１年目研修　⇒個人の選択性
→自主的に研修しなければ研修の機会はない

支援

国（文部科学省）

「多様な動きをつくる運動（遊び）」の作成

手厚い指導方法の提示
- 子どもたちの発達段階を考慮
- 運動の楽しさ、心地よさへ主眼
- ゲームを取り入れる

教員ではない指導者の存在

「小学校体育活動コーディネーター」の存在の必要性

☆教員を支援・指導する存在
＝教員の学び直し・スキルアップ
☆子どもの「生きる力」を育てる存在

②「小学校体育活動コーディネーター」の学校配置

○　「スポーツ振興基本計画の達成状況と課題」の中で、「学校と地域が連携して、子どもの学校内外のスポーツを充実することは必要不可欠な施策である」と明記されているように、学校教育と地域の教育力、いわゆる**「学社協働」**によるスポーツの振興は、極めて重要だと思います。

○　このような学校と地域の連携・協力の重要性については、これまでも指摘がなされ、その結果、学校部活動や必須クラブの時間、総合的な学習の時間において、「外部指導者」「ゲストティーチャー」として学校に派遣されてきました。

○　しかしながら、外部指導者の活用に際しては、**「学校の教員と外部指導者の共通理解など派遣に関する体制が整っていない学校がある」**という指摘もあり、学校と外部指導者の関係がうまくいくような体制づくが求められています。

○　外部指導者と学校教員との共通理解が図られていない指摘に対しては、学校教員の外部指導者に対する**「意識改革」**の必要性もありますが、今、学校では、授業時数の増加、生徒指導上の児童・生徒・保護者をめぐる様々な問題、課題が山積しており、学校現場は、「外部指導者」の重要性は認識しつつも、抱える課題の多さや教員の多忙感から「外部指導者」の派遣に対して消極的であったり、うまくコーディネートできなかったりする現状があることも事実です。

○　こうした中にあって、**「小学校体育活動コーディネーター」**を学校に配置することによって、子どもたちの実態が適時に把握できたり、教員との打ち合わせ等が効率よく、スピーディーに進めることが可能になると考えます。そして、ティームティーチングによる体育の授業を充実させるためには、教員と**「小学校体育活動コーディネーター」**との打ち合わせの場と時間を確保することが最も重要だと思います。

○　これまでもスポーツ関係団体をはじめ、スポーツの関係機関から、スポーツ指導者が学校に派遣されてきましたが、学校・家庭・地域との連携・協力は十分ではなかったように思います。やはり、日常的に、継続して配置されることが大きな成果をもたらすと思います。

小学校体育の現状と「小学校体育活動コーディネーター」の学校配置

②小学校体育活動コーディネーターの学校配置

「スポーツ振興基本計画の達成状況と課題」
学校と地域が連携して、子どもの学校内外のスポーツ環境を充実することは必要不可欠な施策である。

学校現場における現在の取り組み
・外部指導者(授業・部活動等)・ゲストティーチャー

学校現場実情

学校の教員と外部指導者の共通理解など派遣に対する体制が整っていない。
⇒必要な体制づくり

・授業時数の増加
・生徒指導上の様々な問題・課題
↓
・「外部指導者」の派遣に対して消極的
・うまくコーディネートできない

学校教員の外部指導者への**意識改革**が必要

学校教育と地域の教育力 **学社協働** によるスポーツ振興

「小学校体育活動コーディネーター」を学校配置

子どもたちの実態が把握できたり、教員との打ち合わせ等が効率よくできる等スピーディーに行うことができる。

教員と「小学校体育活動コーディネーター」との協議の場の確保が重要！

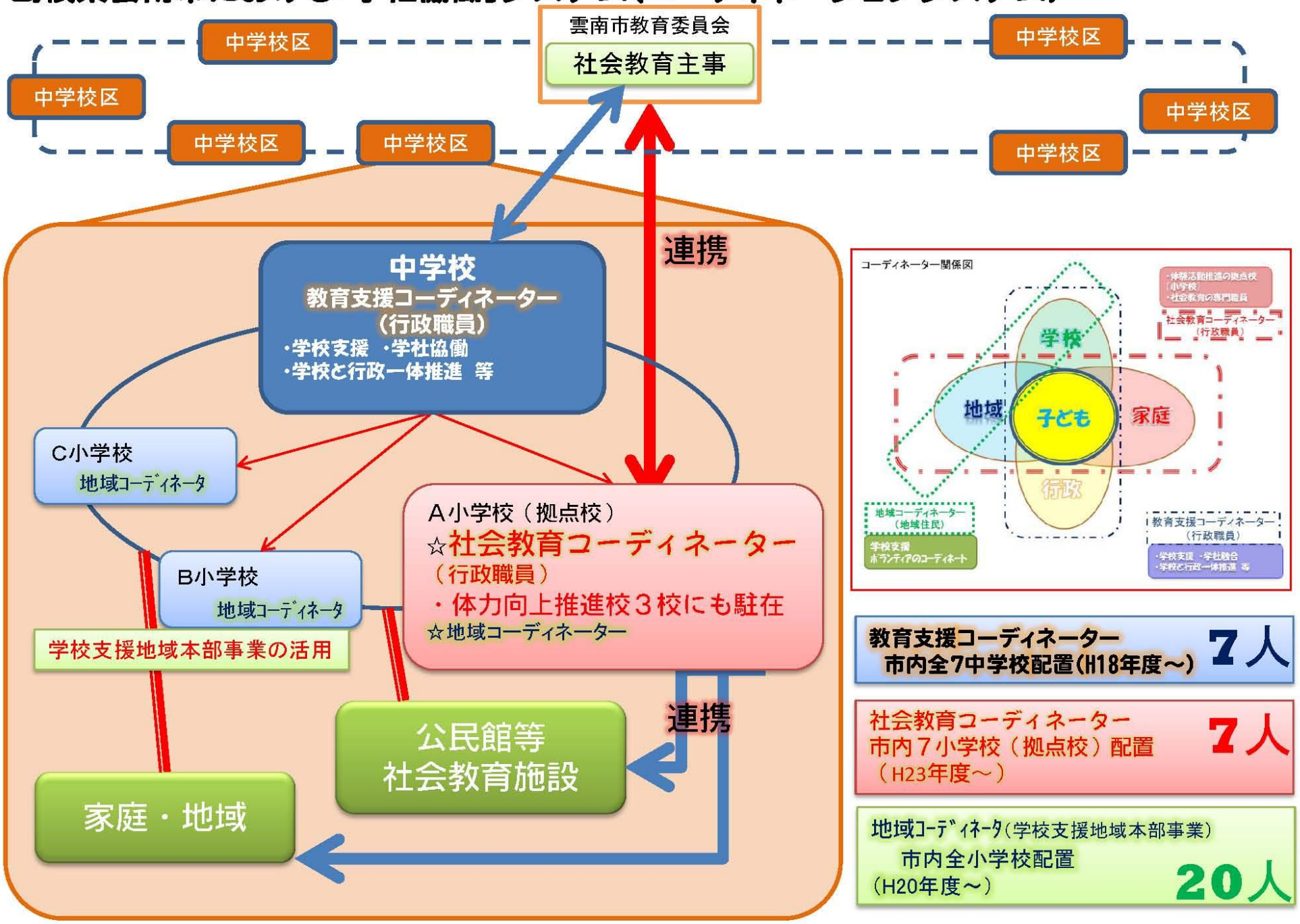
○　今、雲南市は、**「学社協働」システム**の推進として、全ての中学校に教育委員会職員７名を**「教育支援コーディネーター」**として、全ての小学校 20 校に、地域住民による**「地域コーディネーター」**を 20 名、更に、小学校７校の体験活動拠点校に７名の教育委員会職員を**「社会教育コーディネーター」**として配置し、様々な体験活動の企画やコーディネートをしています。

○　雲南市教育委員会では、「体力向上推進校」3 校をモデル指定し、７名の**「社会教育コーディネーター」**の内、３名をそのモデル校に配置しています。モデル校では、**「社会教育コーディネーター」**が学校・地域・スポーツクラブとの連携を図りながら学校体育の充実を図っています。

○　こうしたコーディネーター制度は、平成 18 年度から、年次的に充実させてきましたが、職員室での勤務や職員会議での発言等を通して、行政と学校との信頼関係をはじめ、家庭、地域（企業）、各種団体や関係機関との連携・協力が図られてきています。

○　以上のような、２重、３重の**コーディネーションシステム**を構築しながら**「学社協働」**を推進してきた成果の下に、**「小学校体育活動コーディネーター」**の学校配置を提案いたします。

島根県雲南市における「学社協働」システム（コーディネーションシステム）



Ⅲ.「小学校体育活動コーディネーター」の人材と役割

1.「小学校体育活動コーディネーター」として配置する人材

○　「小学校体育活動コーディネーター」の学校配置を提案いたしましたが、配置場所については、拠点となる小学校か、中学校に配置して、小中一貫教育を推進することも考えられます。

○　「小学校体育活動コーディネーター」の人材としては、体育の教員ＯＢ、スポーツ推進委員（社会体育指導委員）、トップアスリート等が考えられますが、いずれにしても、体育の技術指導ができ、教員に適切なアドバイスが出来る人材であることが望ましいと思います。

2.「小学校体育活動コーディネーター」の役割

○　教員とのティームティーチングにより体育指導を行う。

○　体育の事業の苦手な教員の支援、指導

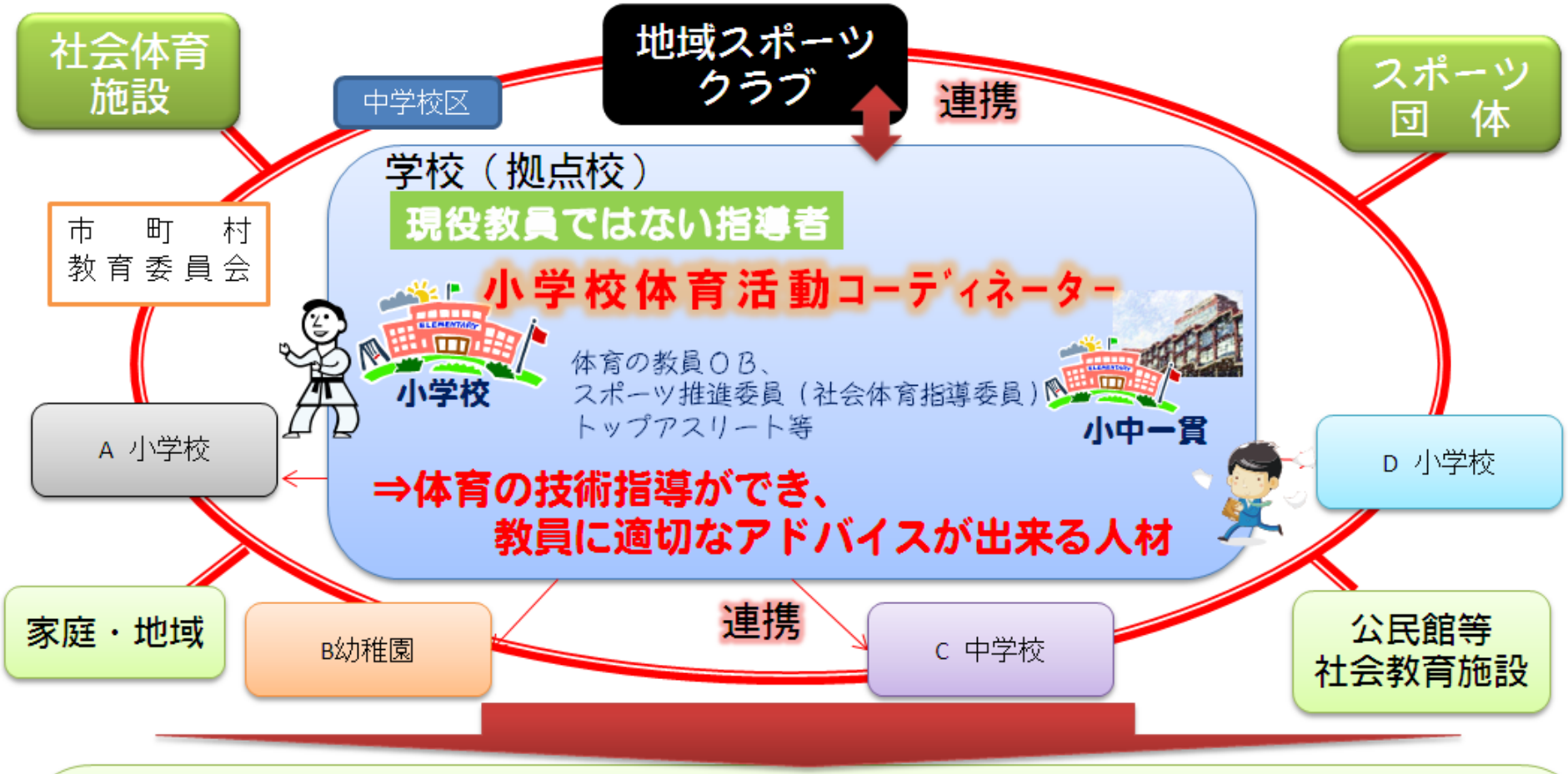
○　業間、昼休み、放課後の体育活動の支援

○ 小学校を核として、幼稚園、中学校との連携を深め、系統性のある運動・スポーツの推進を図る。

○　単なるコーディネーターではなく、学校の中にあって、地域スポーツの推進プログラム等の企画・立案するようなプランナーとしての役割を果たす。

○　地域スポーツクラブやスポーツ団体、関係機関、スポーツ施設との連絡・調整を図るとともに、学校における地域人材の積極的な活用を図る。

○ 積極的な学習情報の収集と提供を行う。



求める役割

- ○教員とのティームティーチングにより体育指導を行う。
- ○体育の事業の苦手な教員の支援、指導
- ○業間、昼休み、放課後の体育活動の支援
- ○小学校を核として、幼稚園,中学校との連携を深め、系統性のある運動・スポーツの推進
- ○地域スポーツの推進プログラム等の企画・立案するようなプランナーとしての役割
- ○地域スポーツクラブやスポーツ団体、関係機関、スポーツ施設との連絡・調整を図る
- ○学校における地域人材の積極的な活用を図る
- ○積極的な学習情報の収集と提供を行う